

## 【主なる登場人物】

- ・真塩紋弥 成島司直（図書頭）の私塾「成河塾」で漢学を学び、上州群馬郡堤ヶ岡村に戻り私塾「芳叢書院」で地方教育に貢献す。身体を賭して榛名山中野山麓に発生した秣場騒動の大惣代を務める。妻定との間に三男一女あり。
- ・萩原定<sup>カタ</sup> 武州多摩郡金井村出身で、菓草と養蚕で暮らし、無垢で頭脳明晰な紋弥に惹かれ己の身を投げ出して献身的な妻となつて支える。
- ・山村主膳 上州鬼石町浄法寺出身で関東取締役出役（八州廻り）の特命特務同心で知恵者、馬庭念流の剣の使い手、後見人は幕閣の小栗上野介忠順。を放り出して主膳の密偵を務め、紋弥とも親交を持つ、主膳亡き後は紋弥の良き相談相手となる。
- ・遠山常左衛門 信州松本出身で利根川の船長。稼業
- ・青木亀吉 成島司直の私塾で紋弥と共に漢学を学ぶが一年で挫折して帰郷。後に紋弥の腹心となり、共に秣場騒動に身を投じ岩鼻獄舎に投獄される。
- ・小笠原損津守広業 辰口評定所務めで主膳の上司。
- ・島田金の助 横浜で武家出身の紋弥の先輩塾生。
- ・岩城治兵衛 上州の鉄山開発失敗後に戻つて横浜の陳飯楼の主となる。妻雪絵（李雪蘭）は浜きつてのやり手の女将で、共に紋弥夫婦の強い味方。
- ・川田次郎左衛門 上州館林出身の侠客だったが横浜の顔役となる。新田埋め立て工事の普請場の元締め、岩城治兵衛を紋弥夫婦に紹介する。
- ・木村甲斐守 幕府岩鼻陣屋の群代で高崎藩と結託し、賂を奨励するので部下の主膳は反発する。
- ・中島竹次郎 群馬郡六郷村出身で見込まれて真塩家に入り、紋弥の長女厚と結婚する。
- ・鈴木大全 熊谷藩管轄の妻沼歓喜院聖天堂の院主で懊悩する紋弥の心の闇を解きほぐす役目を担う。
- ・山縣有朋 伊藤博文と並ぶ明治政府の元勳、第三代内閣総理大臣で日本陸軍の創始者。七人の子を儲けるが次女を除き全て夭折。紋弥の末娘を妾にする。